

2010-2011

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com



地域を育み、大地をつなぐ

2010-2011 年度 RI 会長 レイ・クリンギンミス

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 太田 敦士 ■幹事 / 吉木 邦男 ■会報・雑誌・広報委員長 / 三島多恵子
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

第955回

2011年5月31日(火) 晴 第42回

～ 地区環境保全週間 ～

齊 唱	手に手つないで
出 席	会員 66名 (出席率算入人数 59名) 出席 44名 出席率 74.58% 前々回補填率 93.33%(5月17日分)
ゲスト	RI2760 地区 環境保全委員会 委員長 鈴木 元弘さん 米山奨学生 キム・ウォンギョンさん

会長あいさつ

会長 太田 敦士さん

皆様、こんばんは。私の任期もあと1ヶ月となりました。ラストパートに入るところです。

実は昨日、小山慎介さんから電話がありました。彼は地区の会員増強委員長ですから、今年退会者が非常に多いということが大変心配してしまて、自分のクラブで会員数がどんどん減っているのは何とかならないかという話でした。私としても、自分の力の限りとは言いませんが、なるべく一生懸命努力したつもりです。なかなか難しいという話をしました。

会員増強だけは皆様には是非ご協力をお願いします。3年前の20周年準備委員会が出来た頃から、チャレンジ100ということで、会員を100名にしようという一生懸命努力した結果が、このままいくと来期のスタートは60名を切るかもしれないという状況になってしまい、まずいと思っております。

私も色々声は掛けていますが、この景気もありまして、「ロータリーに入ると、何か仕事が増えるのか。」という意見が非常に多く、また年会費も高いという話で、どんどん断られ続けている状況です。皆様、顔が広い方が沢山みえると思いますので、是非来期のスタートが少しでも楽になるように、今期とは言わず来期にかかってでも何とか増強の方だけは宜しくお願ひしたいと思ひます。

幹事報告

副幹事 入谷 直行さん

1. 次回6月7日は6月の理事会を午後5時より17階のバインで開催いたします。お間違ひの無いようにお

越し下さい。

お知らせ

出席袋に11-12年度の第2回事前クラブ協議会のご案内を入れてあります。写真撮影を行う事になっておりますので、役員、理事の方はなるべくご出席下さいませようをお願いいたします。

ニコボックス

◆ 本日はお招きいただきありがとうございます。本年度の委員会テーマ「生態系ネットワーク」についてお話しさせていただきますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

RI2760地区 環境保全委員会
委員長 鈴木 元弘さん

◆ RI2760地区 環境保全委員長 豊田ロータリークラブ 鈴木元弘さんの卓話、楽しみにしています。

生野 房江さん	入谷 直行さん	坂田 信子さん
江村 雅夫さん	田中 省三さん	川村 繁生さん
中村 勝さん	細井 俊男さん	野々村 憲吾さん
白藤 憲雄さん	新原 尚さん	山本 誠一さん
長尾 浅吉さん	久米 伸治さん	武藤 正行さん
杉本 勇さん	三浦 和人さん	水野 俊男さん
佐々木元彦さん	杉山 隆秀さん	木下 福郎さん
田中 一雄さん	中西 芳子さん	鈴井 一博さん
三浦 隆さん	加藤 英敏さん	榊原 和美さん
白銀 義昭さん	川瀬 悟さん	児島 徳和さん
森田敏二三さん	犬飼りさ枝さん	朝比美和子さん
川辺 清次さん	林 隆二さん	黒田 康正さん
東山 直史さん	大橋さなえさん	木村 猛さん
三島多恵子さん		

本日合計 50,000円 累計 1,660,000円

米山奨学生紹介

カウンセラー 坂田 信子さん

奨学生のご紹介をさせていただきます。キム・ウォンギョンさん、ふるさとは韓国でございます。

4月から日本福祉大学で「認知症高齢者の家族会から展開する地球ネットワーク活動」について研究をされていらっしゃる。少しごあいさつをしていただきたいと思ひます。

米山奨学生 キム・ウォンギョンさん

こんばんは。日本福祉大学大学院博士課程で勉強していますキム・ウォンギョンと申します。

私は韓国で高校まで卒業し、来日して大学と修士課程を東京の上智大学で勉強しました。専門は社会福祉を専攻しています。今年で博士課程3年目です。3年目の一番大変で時間が一番大事な時期に、皆様から奨学金をいただくことができて、本当に感謝しております。1年間どうぞよろしくお願いたします。



外部卓話

「刈谷 RC ロータリーの森づくり 生態系ネットワーク」
RI2760 地区 環境保全委員会
委員長 鈴木 元弘さん

皆様、こんばんは。

昨日からロータリーでは環境週間ということで、今月はこれで6回目の卓話でございます。今日話をさせていただくテーマは、生態系ネットワーク事業についてです。



昨年、この地ではCOP10がございました。最終日には、名古屋議定書と愛知ターゲットの2つが採択されました。COP10は生物多様性が1つのテーマとして、愛知ターゲットというのは、この生物多様性の損失を緊急的で効果的に止めるために実践をしようという事でございます。愛知県はこの愛知ターゲットを受けて、本年度から愛知自然環境保全戦略推進会議を発足させ、生態系ネットワーク事業の展開をしております。生物多様性を求めるならば、生態系ネットワークを作っていないとかなければならないという事でございます。

地球46億年の歴史を1年に例えるという地球カレンダーがあります。1月1日午前0時に地球が誕生します。ここで注目していただきたいのは、12月31日午後11時59分58秒に産業革命が起こり、人類が文明を編み出しました。そして午後11時59分59秒で20世紀が始まり終わったという、このたった1秒の中に文明を編み出して、地球環境問題が起きた事です。

地球環境問題というのは2つございます。1つはゴミ問題で、二酸化炭素の排出という大きな問題がございます。年間で70億炭素トンの二酸化炭素を排出します。自然状態で吸収できる数量は30億炭素トンと言われております。

そしてもう1つが、毎日100種を超える野生の生き物が絶滅していると言われており、年間40000種とも言われております。ただ、人類はこの産業革命以来文明を手にして、あたかも自然を征服できる技術を持ったと勘違いをしておりました。先の震災で

はその思い上がりが自然界の前では何もできませんでした。今こそ、我々は文明の有り方、毎日の生き方、暮らし方というものを考える教訓にしていきたいと思います。

愛知自然環境保全戦略推進委員会のNPOに、2760地区環境保全委員会としてこの会議に参加しております。愛知自然環境保全戦略推進委員会というのは、愛知県に3つのモデル地区を設定しました。知多半島、名古屋東部丘陵、西三河です。東部丘陵生態系ネットワークとは、八事から青少年公園の中に20の大学があり、各大学の学校林を整備して今よりも更に生物多様性を高め、それをネットで結んでいくというものです。西三河生態系ネットワークは豊田関係の企業がほとんど入っております。

次に生態系ネットワークについてお話しします。人は誰でも多用な自然をできるだけ身近に呼び寄せて、都市部の中に緑の息吹を吹き込もうと努力しています。我々の子供の頃は、生活空間の中に色々な生き物がいました。問題は、生物の視点から見て、彼らが快適であれば人間も快適であるという概念がそこに存在するという事でありまして。雨が森に降りますと、雨は川となり海へ流れていきますが、それは1つの生態系ネットワークが出来上がっていると言えます。ただ、よく見ると、最近では森が手付かずでうっそうとした森となり生態系的にも単調な森となっております。今、新しく森づくりというものを始めようとしております。そして、ダムやえん堤で魚の溯上ができないという問題もございまして。そういったものに改良を加えますと、1つのエコラインができます。問題はそのエコラインをどのように都市部に結びつけることができるのかということでございます。

ここで、ビオトープとランドシャフトについてお話いたします。ビオトープとは、バイオとトップスのドイツ語の略語で、生物生息空間のことです。ここでいう生息空間というのは、生物が生産される空間を意味します。ランドシャフトとは景観です。ここでいう景観とは人間の見たままに写る情景や景色ではなく、その地域の風土、文化、歴史に合わせて生態系を含む自然保護区を意味します。

人間が快適に暮らしていける空間とは、どういう空間でしょうか。人間が生きていく為には、住む所も働く所もなくてはならないし、交通手段として車がなければいけません。この考え方はこれからの街づくり、都市計画のコンセプトであると言っても過言ではありません。

そもそもの問題意識は1970年代のドイツ・スイスで生まれました。人類の生存と豊かな生活は自然を守らなければ成り立ちそうに無いという考え方がひとつあります。その考え方に基づいて色々な国際会議がありました。COP10もその1つであります。しかしながら、人類は自然だけでは生きられない、住まい、会社、道路がいる。それを造るためには、建設工事が必要です。その2つが対立していたわけですが、どちらも無視できないわけでありまして、今後はあらゆる人間活動を自然を壊さずに実現するべく、自然保護と経済の成長というのは調和させていかなければならないということでございます。そういった考えでなければ解決は絶対できないと思います。

人間は自然そのものを造ることはできません。た

だ、自然界が100年掛かって創り上げる自然に人間が手を加えることによって50年になる可能性はあります。大切なのは一番底辺の部分に物理的な環境をその地域に合った状態に整えることです。そうすると自然は自ら勝手に豊かさの回復をしていきます。つまり木を植えることよりも木が生育していくための水と土壌を確保することが大事であります。物理的環境が整っていないとビオトープとは言えません。

今からお話するのは、生態系ネットワーク事業の事例でございます。これは刈谷RCさんが計画していて、3年後の60周年記念事業でロータリーの森というのを造ろうとしております。ご相談をいただきまして、この生態系ネットワークの概念と、刈谷RCさんのロータリーの森を1つの事業として、愛知県のモデル地区の1つの西三河生態系ネットワークのモデル事業にしようということで、これは刈谷RCさんもお金を出しますが、愛知県にもお金を出していただいて、地区のロータリーもグローバル補助金を使ってこれをやろうという計画をしております。

刈谷には3つの流域があり、そこに農地が広がっております。その中心部が市街地です。この河川の流域には、色々な豊かな生物がいますし、農地や畑地にも様々な生物がいます。生態系ネットワークというのは、田舎ではなく我々が住むこの都市部に生物を呼び込もうとすることです。しかし、今都市部はほとんどコンクリートで埋め尽くされております。名古屋市でも砂地の部分がございます。都市部でこれをやろうとすると、例えば学校のグラウンドの余剰地を利用した学校ビオトープを作ったり、建物の屋上緑化、壁面緑化、拠点となる既存の公園を作り直す自然化、街路樹に自生種の木を植栽した緑の回廊を作る、我々会員企業の余剰地を利用してのビオトープを作るなどです。

刈谷市の航空写真を見ますと、一番下の街中に刈谷市民会館があります、刈谷市民会館を撤去して刈谷市がそこに防災公園を造るという計画をされました。その防災公園の中に刈谷RCさんはロータリーの森を作ろうという考えです。生態系ネットワークの考えというのは、この一番上に刈谷ハイウェイオアシスというのがございますが、それが刈谷の一番北部でございます。そこまでをネットで結んで、都市部になるべく生き物呼び込もうという計画です。刈谷ハイウェイオアシスから刈谷市民会館までは直線距離で7キロです。7キロを生態系ネットワークで結びます。生き物は、生物移動可能距離というものを持っています。小さな生物になればなるほどその移動可能距離は短くなります。トンボやチョウチョは大陸から飛んでくるものもいますし、500メートルしか移動できないものもいます。一番底辺の一番小さな生物がいなくて当然それを餌とする生物がいなくてということですので、できれば500メートル毎に1箇所の拠点を造ろうということでございます。

この事業には、ロータリーの地区補助金が使えます。近くでそういったお話がありましたら是非地区補助金をご活用下さい。ご清聴ありがとうございました。

第 957 回例会 (6月14日) のご案内

会員卓話 兎島 徳和さん